

English follows Japanese

ルカの福音書 1章 46-55節 アドベントの賛歌：マリアの賛歌

2021年の待降節、次の4週間のアドベントの日曜日をアドベントの賛歌を中心に学ぶことにします。多分パフォーマンス・ポエトリー、詩の朗読を含むこれら4つの賛歌は実際いくつかのケースではイエス・キリストの誕生への応答として謳われています。次の4週間をかけて、これらの賛歌をその週のアドベントのテーマの観点から検討していきます。ここYIBCの教会カレンダーに沿って毎週のテーマを決めましたので、伝統的なアドベント週間のテーマと順番が異なります。今日は、最初の賛歌で、伝統的にラテン語の名前マニフィカトと呼ばれるマリアの賛歌、を見ていきます。

イエスの母マリアが聖霊なる神によって息子が与えられた未婚の処女の母としての立場を受け入れた後、語った言葉、それは美しい詩でした。みなさんは大天使ガブリエルがどのようにマリアのもとに来て、彼女が子供を産むと告げたかの物語を知っていらっしゃるでしょうか。彼女は自分は処女であり未婚であると答えました。ガブリエルはそれは聖霊のなざる御業であると言いました。マリアは彼女の年老いた親戚で通常の妊娠ではありませんが年齢を考慮するとやはり奇跡である妊娠をしているエリザベトを訪ねます。今日の46節から始まる聖書箇所はこの訪問後の時点から再開しています。ルカの福音書1章46-47節 **46. マリアは言った。「私のたましいは主をあがめ、47. 私の霊は私の救い主である神をたたえます。**

祈りましょう。

マリアは、**私の霊は私の救い主である神をたたえます、** と言って始まります。日本語訳では、たたえますとありますが英語訳では喜びますと書かれています。今日、アドベントの第一主日のテーマである喜びを考えつつ、何故マリアが喜びに満ちているのかを問うてみるべきです。彼女はとても困難な状況に自分を見つけました。彼女は未婚で、妊娠しています。彼女は裕福ではなく、おそらく貧しかったでしょう。彼女はとても若く、たぶん十代でしたが、母となるのです。これらの状況は当然喜びの欠如を意味します。さて、この人生には私たちが幸せな気分にくれたり喜ばせてくれるものがたくさんあります。私たちが買える物もあります。経験できることもあります。結婚や友情などの人間関係は私たちに喜びをもたらすこともできますし、もたらすべきです。マリアもきっと彼女自身のこれまでの人生でそれらを経験しているはずです。彼女の許嫁のヨセフは何があっても彼女を支え結婚することはわかっています。しかし、マリアは究極の喜びの中心を見出したのです。そしてこの賛歌は私たちに同じ場所にどのようにして私たちの喜びを見つけるかの手本を与えてくれています。その場所にはなくそのお方に、神に、と言うべきでした。神はもちろん人ではありませんが、人格をお持ちです。私たちは神にあって喜びを見出すことができるのです。しかし、そうできるようになるには、まず、所有している物、今ある状況、そして愛する人たちを見続けることをやめて代わりに神を見るべきです。詩篇63篇1-2節のダビデの姿勢を持つべきです。詩篇 63篇 1~2節 **1.神よあなたは私の神。私はあなたを切に求めます。水のない衰え果てた乾いた地で私のたましいはあなたに渴き私の身もあなたをあえぎ求めます。2.私はあなたの力と栄光を見るためにこうして聖所であなただけを仰ぎ見しています。**

どうすればあなたの夫や妻を愛し続けることができ、結婚生活に喜びを見出すことができるのでしょうか。重要な方法の一つは相手の人の肯定的な部分を見ることです。結婚生活では何年も経つとあまりにも多くの場合、否定的な部分や難しいところばかりを見てしまい、私たちの愛する人の内面と外面両方の美しさを見るのをやめてしまいます。結果的に不満を呼び、拒絶に導く場合もあります。神の場合、否定的な部分は皆無ですが、それでも私たちはいまだに私たちに必ず喜びをもたらしてくれる神のあらゆる人格の側面を見ることができません。なぜならば、他のことに気を取られているからです。そうするとき、喜びを失い、自分たちの状況を神に不満を訴えたり、神を非難したりすることさえあります。マリアは私たちがどのように私たちの視点を神に今一度焦点を絞り人生のどんな状況にあっても喜びを見出せるかをはっきりと示してくれています。この賛歌で、マリアは彼女自身に彼女の状況下でも喜びを見出させてくれる神の人格の5つ

の側面を繰り返し述べ、思い出しているのです。神の人格の第一の側面を 48 節に見ます。 **48. この卑しいはしために目を留めてくださったからです。**ご覧ください。今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。

マリアが心を注ぐ神の第一番目の側面は神の主権です。

そう言う理由は、この一節が神は人の価値観の理解ではなく御自身の主権において誰を祝福されるかを選ばれるからです。人間的な判断からは、マリアは神の御子の母としてはどう見ても相応しくありませんでした。彼女はどこかの国の王族でもありません。家族が裕福なわけでもありません。子育てに長けているわけでもありません。ましてや赤子のイエスの世話など荷が重すぎます。彼女は若いティーンエイジャーで妊娠しており、未婚であり当然のごとくひどく怯えています。しかし、神が彼女をイエス・キリストの母となることを定められました。イエス・キリストを主として救い主として知っていれば、それは歓喜する最大の理由です。なぜならば、神の主権による決定ゆえに私たちには救いがあるからです。私たちが神を選んだのではありません。実際には、聖書は私たちの本来の罪の状態では神とは戦争状態であることを明らかにしています。そうでなければなぜローマ人への手紙 5 章 1 節はこう言うのでしょうか。 **ローマ人への手紙 5 章 1 節** こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

神はイエス・キリストへの信仰を持たせる人を選ばれます。その人たちの罪は赦されるので神との平和を持ちます。ですから、神はマリアを選ばれたように私たちを選ばれるのです。これは私たちに喜びを与えます。

しかし、神の人格はそれ以上に喜びをもたらすものがあります。49 と 50 節を見て下さい。

49. 力ある方が、私に大きなことをしてくださったからです。その御名は聖なるもの、50. 主のあわれみは、代々にわたって主を恐れる者に及びます。マリアが神の主権の次に心を注ぐ神の第二の側面は神の聖さです。正直に言うと、神のこの側面は私たちに恐れを抱かせます。大いなる喜びよりも、神の完全さを考えるとき、私たちがどれほど神を期待に込められなかったを知ると落胆してしまいます。ペテロの手紙一 1 章 15-16 節は実際神の聖なる完全さは私たちの基準であると言っています。 **ペテロの手紙 第一 1 章 15~16 節 15. むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。16. 「あなたがたは聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」と書いてあるからです。**

私たち自身の生き方をよく見れば、どれほど頑張っても、たとえキリストに従う者であっても神の基準を満たすことはできません。しかし、神の聖さに直接関係する神の人格のもう一つの側面が彼女の賛歌に含まれています。それは神の憐れみです。神の聖さとは神が罪を憎まれ、罪深い被造物からは完全に聖別されていることです。それは変わることもなければ、和らげられることもありません。しかし、神の憐れみとは、神が愛ゆえに 罪深い被造物に、御自身の聖さに倣うことができなかつたことに赦しを与えるために手を差し伸べられることです。その憐れみは私たちの相応しさを基にしていません。それは、私たちがイエス・キリストへの信仰を持っていると言う事実によります。それによって、私たちはキリストの義、聖さに覆われるのです。神はその憐れみを私たちに注がれます。なぜならば、私たちは神の罰と怒りだけが相応しいにも関わらず、キリストにあって聖いからです。神の聖さが決して変わらないように、アブラハム、イサク、ヤコブ、そして彼の後に従った私たちの世代までも含めて歴史上の全員に与えられた憐れみも変わりません。神は私たちの罪をご存知です。しかし、キリストにあってそれを私たちの罪と見做されないのです。

主の憐れみは更に深いという歌はその神の憐れみを美しく描写しています。

何という愛、私たちの犯した罪を思い出さない

全てを知り尽くされた全知のお方、罪を覚えぬ

底のない海に投げ込まれる

その数えきれない罪の深さも、主の憐れみはより深い

そして、神の主権、聖さと憐れみ、それでもまだ不足であったとしたら、マリアが51節で述べる第三の側面を見ましょう。

51. 主はその御腕で力強いわざを行い、心の思いの高ぶる者を追い散らされました。52. 権力のある者を王位から引き降ろし、低い者を高く引き上げられました。

マリアが喜びを見出すために着目する神の第三の側面は御力です。神の御力は人の高慢と対比されています。創世記の学びでもうすでに何回かバベルの塔について言及してきました。私たちが神から目を逸らし、自分たちの能力に頼ることは人生をしのぎ通すのに人間の能力で十分と思うことです。しかし、彼らの能力に頼ったバベルの塔の建設者たちにされたように、神が介在され真の力を示されます。神の力は最も力ある王をその権威から取り去り、神の主権によって、御心のままに誰でも代わりにその地位つかせることが出来ます。あなたがご自分の偉大な能力があなたに喜びをもたらすと思っているならば、いつかあなたの力があなたを失望させる時が来るでしょう。詩篇作者は詩篇27篇で歌っています。

詩篇 27篇 7節 主は私の光私の救い。だれを私は恐れよう。主は私のいのちの砦。だれを私は怖がろう。

神の力に頼る姿勢が私たちのものであれば、私たちがどんな困難な状況に面しようとも喜びを見出すことが出来ます。それで、終わりません。マリアは今一つ神の人格を53節で指摘します。

53. 飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせずに追い返されました。

マリアが焦点を当てる神の第四の側面は、神は私たちの必要を備えられると言うことです。アブラハムは実際その名前を創世記22章で、神が彼の息子イサクの代わりに雄羊を備えられた後に、神に献げました。創世記22章14節アブラハムは、その場所の名をアドナイ・イルエと呼んだ。今日も、「主の山には備えがある」と言われている。

主は備えてくださるは、ヤハウエ・イラーまたはエホバ。イラーです。アブラハムは私たちが必要とするものは神が与えられると知ったのです。アブラハムは彼の息子の命を救うために生贄を必要としていました。私たちには癒しやストレスからの解放、お金や夫婦関係の修復、依存症からの解放、などありとあらゆる必要があります。神が与えられる答えであり、マリアが気づいたことがピリピ人への手紙4章19節にあります。また、私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいます。

そして、マリアがどのように彼女の思いを終わらせるか注目して下さい。 **富む者を何も持たせずに追い返されました。**

自分自身の資源やそれらの資源を持つための能力に頼る者は、神がその資源を取り去られます。生きている間になされなければ、死んだ時になされます。あなたは死んだら何も持っていけないからです。あなたはあなたのお金があなたの必要を備えてくれると信頼していますか。そのためにあなたは神が望まれるように神の御業、彼の教会のためにあなたのお金を献げますか。そのお金を稼ぐために、その資源を持つためにあなたの人生を費やしていませんか。そのために個人的または教会の家族との教会生活をすり減らしていませんか。神を信頼して下さい。神は備えられます。その満たしの中で、あなたは真の喜びを見出します。最後に、マリアは神の人格についての最後の思いを54-55節で語ります。神を信頼しなさい。神は備えてくれます。その満足感の中で、あなたは真の喜びを見つけます。マリアは彼女の神の人格についての最後の思いを54-55節に見ます。54. 主はあわれみを忘れずに、そのしもベイスラエルを助けてくださいました。

55. 私たちの父祖たちに語られたとおり、アブラハムとその子孫に対するあわれみをいつまでも忘れずに。

マリアが焦点を置く第五番目で最後の神の人格の側面は今まで私たちが学んできた多くの性格特性を結びつけます。彼女は神は憐れみによってイスラエルを助けると言及します。神はこのメシアをアブラハム、イサクとヤコブから来る大いなる国民となる人たちを通して遣わすと約束されました。これらの人たちは完全ではありませんでした。創世記でたびたび見たように、彼らは私

たちのように神の期待を裏切りす。しかし、神はその憐れみによって彼らを通して全ての国民を祝福することを定められました。神の力はアブラハムの家族を守り、やがて彼らは何百万人となり、彼の子孫マリアを通して、世を祝福し、罪を打ち負かすその方が来られるのです。神の助けなしに、アブラハムはその老齢で息子を持つことは出来なかったでしょう。神の助けなしに、イサクはリベカに出会うことは決してなく、エサウとヤコブを持つこともなかったでしょう。神の助けなしに、ヤコブの家族はカナンの地で飢え死にしたでしょう。その代わりに、神はヨセフを選び、彼の兄弟たちに憎しみを通して、彼をエジプトの牢獄に送られ、最終的に彼を 파라オに続くエジプトで二番目の位につかせました。これら全てを神は彼の民を救い大いなる国民とするためにされました。そして、今、この若い少女マリア、イスラエル人でアブラハムの子孫の一人が約束のメシア、イエス・キリストを産むのです。神は今日も民を助けることを止めておられません。あなたには今喜びが消えてしまったかもしれません。アブラハムのように、あなたは無力さと何も起こらないことばかりを見ているのです。アブラハムにとっては不妊と息子がいないことでした。もしかしたら、ヨセフのように何も悪い事をしていないのにエジプトの牢屋にたどり着いてしまいました。私たちは私たちの置かれる絶望的な状況のみを見えています。しかし、神は働いておられます。神は民を大いなる御力と御言葉の約束を通して助けられます。神はアブラハムのために約束を果たされました。ヨセフのためにも果たされました。ヨセフのために成し遂げられたことによってヤコブとヨセフの家族全体を助けました。そして、最終的にアブラハムから1000年以上後にアブラハムを通して世を祝福されると言う約束を成就されます。私たちがこの一年を費やし見てきたアブラハムとイサクとヤコブに与えられた約束はベツレヘムの飼い葉桶に生まれる赤ちゃんによって真理となるのです。マリアが神が彼女を用いられてイスラエルに約束された究極の助けをこの世にもたらされることを理解したことは明らかでした。その助けは、ユダヤ人だけではなく、異邦人も、そして私たち全員、罪を悔い改めてこの救い主として生まれた赤ちゃんを受け入れることによって救います。もちろん、私たちは赤子のイエスを受け入れているのではなく、復活された主イエス・キリストを受け入れているのです。神が肉となって来られ、私たちの罪のために進んで生贄となられるのです。これが大いなる喜びの理由です。あなたには喜びがあまりありませんか。神の主権に注目して下さい。神の聖さを、罪深い被造物に注がれた神の憐れみを知って下さい。あなたの全ての必要を満たしてくださると言われた全能の神を思い起こして下さい。そして、その神はあなたを助けられることを知って下さい。無力な人間に神が与えられる最大の助けはイエス・キリストです。イエス様によって私たちの降誕場面、救い主誕生の飼い葉桶のシーンは完成されます。最終的にマリアでさえこの物語は彼女についてのことではないことを理解しています。数ヶ月後に彼女の子供が産まれた後に訪れる羊飼いたちについてでもありません。他人が何と考えようとも愛を持って彼女を娶った夫についてでもありません。彼女が家畜のための餌入れである飼い葉桶に寝かせた赤ちゃんについてです。その赤ちゃんは人となるために天の栄光を捨て、彼自身の母であるマリアと救いのために彼を呼び求める全ての人たちのために十字架の上で死んだのです。

Luke 1:46-55 The Songs of Advent: Mary's Song アドベントの賛歌：マリアの歌

For Advent season this year, I am going to spend the next four Sundays of Advent focusing on the Songs of Advent. There are four songs or perhaps spoken poetry really in some cases that are sung in response to the birth of Jesus Christ. Over the next four weeks, we are going to examine those songs in light of the Advent themes each week. These themes are not aligned with the traditional focuses for each of the weeks, because I put them in the order that I believe we need to approach them for our church calendar here at YIBC. Today, the first song we will be looking at is Mary's Song, traditionally called by its Latin name, Mary's Magnificat. It is a beautiful piece of poetry that is spoken by Mary the mother of Jesus after accepting her position as the unwed virgin mother of a son given to her by God the Holy Spirit. You hopefully know the story of how the angel Gabriel came to her and told her that she would have a child. She protested that she was a virgin and unmarried. Gabriel said that this would be a work of the Holy Spirit. She then visits her elderly relative Elizabeth who is also pregnant in the normal way, but still by a miracle given her age. It is at that point after that meeting that we pick up today's passage starting with verse 46. **And Mary said, "My soul magnifies the Lord, 47 and my spirit rejoices in God my Savior..** Let's pray.

Mary begins by saying that her **"spirit rejoices in God my Savior..."** Today as we consider this theme for the first Sunday of Advent, JOY, we should ask, why is Mary rejoicing? This is not an easy spot that she has found herself in. She is not married and she is pregnant. She is not rich, but likely on the poorer side. She is very young, likely a teenager and yet going to become a mother. All of these things naturally lead to a lack of joy. Now, there are lots of things in this life that can make us happy and bring us joy. There are things that we can buy. There are experiences that we can have. There are relationships like marriage and friendship that can and should bring us joy. Mary likely had some of those things in her own life. We know that Joseph her fiancée would stand beside her and marry her anyway. But, Mary has discovered the ultimate focus of joy and in this song gives us an example of how to find our joy in that same place. I should say that person – God. Of course, God is not a human being, but he is a person, and we can find our joy in him. But in order to do that we have to stop looking at the things we have, circumstances we are in, people we love and instead look at God. We need to have the attitude that David had in **Psalm 63:1-2 1O God, you are my God; earnestly I seek you; my soul thirsts for you; my flesh faints for you, as in a dry and weary land where there is no water. 2So I have looked upon you in the sanctuary, beholding your power and glory.**

How do you stay in love with a spouse and find joy in your marriage? One of the main ways is to see the positive in that person. Too often in marriage, after a number of years, we begin to focus on the negative, the difficult and stop seeing the beauty on the inside and outside of the person we love. This leads to discontentment and in some cases rejection. With God, there is no negative to him, but we still fail to see the aspects of his character that should bring us joy, because we focus on other things. When we do that, we lose our joy, we can even complain against God or blame him for our circumstances. Mary is demonstrating how we can refocus our vision on God and find joy in spite of where we find ourselves in life. In this song, Mary rehearses or reminds herself of 5 aspects of God's character that help her to discover joy in her circumstances. We see that first aspect of God's character in verse 48. **⁴⁸for he has looked on the humble estate of his servant. For behold, from now on all generations will**

call me blessed...

The first aspect of God that Mary focuses on that gives her joy is his Sovereignty. I say that because this verse shows that God chooses who to bless based on his sovereign choice not human understanding of value. Mary was not worthy of being the mother of the Son of God by any human determination. She was not royalty of any nation. She was not from a wealthy family. She was not particularly skilled at raising a child, much less the baby Jesus. She was a young teenage girl who was pregnant, not married, to a certain extent naturally scared to death. But God chose her to be the mother of Jesus Christ. If we know Jesus Christ as Lord and Savior, we have great reason to rejoice, because the only reason we have salvation is because of his Sovereign choice. We didn't choose him. In fact, the Bible is clear that in our natural state of sin we are at war with God. Why else would [Romans 5:1](#) tell us, [Therefore, since we have been justified by faith, we have peace with God through our Lord Jesus Christ?](#) He chooses those who he will bring to faith in Jesus Christ and those people will then be at peace with God, because their sin is forgiven. So God chooses us just as he chose Mary, and this should give us joy!

But there is so much more of his character to rejoice in. Look at verses 49 and 50. [49 for he who is mighty has done great things for me, and holy is his name. 50 And his mercy is for those who fear him from generation to generation.](#) **The second aspect of God that Mary focuses on after his Sovereignty is his holiness.** To be honest, this aspect of God's character should be scary for us to some degree. Rather than great joy, thinking about how perfect God is can be discouraging to know how much we have failed him. [1 Peter 1:15-16](#) actually tells us that God's holy perfection is our standard. [15but as he who called you is holy, you also be holy in all your conduct, 16since it is written, "You shall be holy, for I am holy."](#) When any of us examine our lives, we fail to meet that standard no matter how hard we try, even as followers of Christ. But there is another aspect of God's character that Mary included in her song that is directly related to this holiness. It is God's mercy. God's holiness means that God hates sin and is completely set apart from his sinful creation, and that doesn't change or get watered down. But his mercy means that he reaches down to his sinful creatures out of love with forgiveness for our failure to reach his holiness. That mercy is not based on our worth, but on the fact that when we have faith in Jesus Christ, we are covered in Christ's righteousness, his holiness. So God pours out mercy on us because in Christ, we are holy, although we deserve nothing but God's punishment and wrath. Just as his holiness never changes, his mercy that was extended to Abraham, Isaac, Jacob and everyone else in history who followed him extends to our generation as well. God knows our sin, but in Christ does not count them against us. [The song, "His mercy is more" beautifully describes this. What love could remember no wrongs we have done Omniscient, all knowing, He counts not their sum. Thrown into a sea without bottom or shore. Our sins they are many, His mercy is more.](#)

And if God's Sovereignty, holiness and mercy were not enough, look at the third aspect that Mary brings up in verse 51. [He has shown strength with his arm; he has scattered the proud in the thoughts of their hearts 52 he has brought down the mighty from their thrones and exalted those of humble estate;](#)... **The third aspect of God that Mary focuses on to find joy is his strength.** God's strength is contrasted with human pride. We've already mentioned a couple times the Tower of Babel in our study in Genesis.

What happens when we take our eyes off God and put it on our own ability is we think our human ability is enough to get through life. But like the builders of the Tower of Babel relying on their great ability, God intervened to show what real power is. God's strength can remove the mightiest king and, in his Sovereignty, make whoever he wants to take their place. If you think that your own great ability will give you joy, there will come a time where that strength will fail you. The Psalmist says in [Psalm 27:1](#) *The Lord is my light and my salvation; whom shall I fear? The Lord is the stronghold of my life; of whom shall I be afraid?* If that is our attitude of relying on God's strength, then we can find joy no matter how difficult the situation is we are facing. And it doesn't stop there. Mary points out another aspect of God's character in verse 53. *...he has filled the hungry with good things, and the rich he has sent away empty.*

The fourth aspect of God that Mary focuses on is that he provides for our needs. Abraham actually gave that as a name for God in Genesis 22 after God provided a ram to sacrifice in place of his son, Isaac. [Genesis 22:14](#) says, *So Abraham called that place The Lord Will Provide. And to this day it is said, "On the mountain of the Lord it will be provided."* "The Lord will Provide" is Yahweh Jirah or Jehovah Jirah. He was recognizing that what we need, God will give. Abraham needed a sacrifice in order to save his son's life. We may need healing or stress relief or money or a repaired marriage or freedom from addiction, or anything you can think of. The answer that God provides and that Mary recognized is found in [Philippians 4:19](#) *And my God will supply every need of yours according to his riches in glory in Christ Jesus.* And notice how Mary ends her thought...*the rich he has sent away empty.* For those who rely on their own resources or ability to get those resources, God will take away those resources. If he doesn't do it in life, he will at death, because you can't take all the stuff with you. Are you trusting your money to provide for your needs? Does it lead you to not use it as God wants you to by giving it to his work, his Church? Does making that money, getting those resources consume your entire life, so that time for God, whether personal or corporately with the church is crowded out. Trust God...he will provide. With that contentment, you find real joy. Finally, Mary comes to her last thought about God's character in verses 54-55. *He has helped his servant Israel, in remembrance of his mercy, 55 as he spoke to our fathers, to Abraham and to his offspring forever."*

The fifth and final aspect of God that Mary focuses on is that he helps his people. This aspect of God's character combines many of the previous character traits we have talked about. She mentions that God helps Israel based on his mercy. God had promised to bring this Messiah through a great nation of people that would come from Abraham, Isaac and Jacob. These men were not perfect. As we have consistently seen in Genesis. They failed often, just like us. But God in his mercy chose them to bless all nations through. His power had protected Abraham's family so that eventually they numbered in the millions and now, the one who would bless the world and defeat sin would come through his descendant Mary. Without God's help, Abraham would not have had a son in his old age. Without God's help, Isaac would never have met Rebecca and had Esau and Jacob. Without God's help, Jacob's family would die of starvation in the land of Canaan. Instead, God will take Joseph, through the hatred of his brothers, send him to a prison in Egypt and finally make him second in command to Pharaoh himself. All of this, God did, to save his people so they could become a nation and now have this young girl Mary, an Israelite, one of Abraham's descendants give birth to Jesus Christ, the promised Messiah.

God has not stopped helping people today. Maybe your joy is gone, because like Abraham, all you see is inability and nothing happening. For Abraham it was infertility and lack of a son. Maybe it is because like Joseph, who did nothing wrong but ended up in an Egyptian prison, we only see the desperate circumstances we find ourselves in. But God is at work. He helps his people through his great strength and the promise of his Word. He came through for Abraham, he came through for Joseph, and by coming through for Joseph, he helped Jacob and Joseph's entire family. And finally, more than 1000 years after Abraham, he is fulfilling his promise to bless the world through Abraham. The promises that were given to Abraham and Isaac and Jacob that we have spent the past year looking at are now coming true in a baby that will be born in a manger in Bethlehem. It seems pretty clear that Mary understood that God was using her to bring into the world the ultimate help that he has promised Israel. The help that will save not only Jews, but gentiles...and all of us who repent of our sins and accept this baby who will be born as our savior. Of course, we aren't accepting the baby Jesus, we are accepting the risen Lord, Jesus Christ. God come in the flesh, who will become the willing sacrifice for our sin. This is reason for great joy!

Do you find yourself low on joy? Focus on God's Sovereignty...recognize in his holiness, the great mercy he has poured out on us his sinful creation...Remind yourself of the all powerful God who has said that he will supply your every need, and finally know that God will help you. The greatest help that God gives to helpless humans is Jesus Christ. **It is with the manger that represents Jesus that we complete our nativity today.** Because ultimately, even Mary understands, this story is not about her. It is not about the shepherds that will pay her a visit when her child arrives months later. It is not about the husband who lovingly marries her in spite of what others may think. It is about the baby who she will lay in a manger, a feed trough for animals, who gave up some of what it means to be God to become a human and die on a cross to save his own mother, Mary, and all who call upon him for salvation. Let's pray.